

×× 僕は、あの日を忘れない ××

長い美容師歴のなかで忘れられない出来事がありました。そしてそれが今の私を支え続けてくれています。

美容室を開業して15年くらいたったかなあという頃の出来事でした。ある日、いつものようにお店を開き、一番目のお客様は20歳くらいの女性のお客様です。ご提案をさせて頂き髪を切り始めて間もなく、お客様の瞳からぼろぼろと涙がこぼれ始めました。ああオレ短く切りすぎちゃったかな！と、ごめん短すぎる？と聞くと大きく横にかぶりを振り、泣きながら話を始めました。

私のこと覚えていますか？私は小学生から中学を卒業するまで、ずっと先生に髪を切ってもらったあふれ続けています。私もうんうん頷きながら涙がこぼれて言葉ができません。周りのお客様も、もらい泣きしています。店中が温かい涙で包まれました。

この出来事は、私にとって奇跡のようなことです。あああの子の心には届いていたんだと、感謝の気持ちでいっぱいです。このような社会貢献を開業以来始め続けて、もう40年たちます。始めた時は売名行為か！とか偽善者とか選挙にでも出るのがなどと様々な陰口を言われ続けました。自分が我慢、あの子らの笑顔が宝物、そう心の中で祈り続けています。市の社会福祉協議会や民生委員さんが協力してくれて続けられています。命尽きるまで続けます。あの子らを照らす一燈の光であれたなら、それでいいんです。

近年、テレビや新聞などで報道されるようになりました。ずっと断ってきましたが、今日取材を受けることで、同業者や異業種の方が同じ行いを



ていました。私の家は貧しくて、髪はいつもぼさぼさでクラスメートから、汚いとか臭いとか虐められていたんです。ところがある時から、五番街で無料で髪を切ってくれる券が家に届いたんです。弟と二人大喜びで五番街にいくと、可愛いお姉さんがとても優しく髪を洗ってくれて、先生が思い通りに髪を切ってくれたんです。年に二回、それは私と弟にとっては神様の贈り物のようでした。クラスメートから、「どこで切ったの？可愛い」って言われてすごく嬉しかったんです。その時、私は決めたんです。私も大人になったら五番街の先生のような人に役立つ美容師になろうと、私は今春、専門学校を卒業して宇都宮市の美容室へ勤め始めました。初めてもらったお給料で、五番街の先生に髪を切ってもらうんだと、ずっと心に決めていました。そして今日ここに来れました。彼女の瞳から涙が

してくれたなら、この街が子供たちにとって住みよい街になるのではないかと考えています。この思いを伝えたいと思いつけた結果、周囲の若い経営者さんたちも、協力し合って街づくりと一緒に取り組んでくれるようになりました。

人の成功とは、人の役にたてる人生を歩むことだと思っております。美容師に限らず様々な職業の方々と交流を持って生きています。みなさん、ここに来ませんか、自分は大きく手を広げて待っています。みんな、この街をもっと楽しい社会にしていきたいませんか。

I'm glad to talk to you.  
次は怖い怖いお話です。



五番街代表 大倉 大喜生(右)  
那須塩原市長 渡辺 美知太郎(左)



hair design 五番街

TEL.0287-36-6811  
那須塩原市太夫塚  
6-232-213